

プレスリリース「茨城国体開催記念 企画展示〈横山大観〉」

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
標記の件につきまして、本書のとおりご案内いたします。

1 展覧会名 「茨城国体開催記念 企画展示〈横山大観〉」

2 会 期 令和元(2019)年9月28日(土)～10月27日(日)
休館日：10月15日(火)・21日(月)

3 展覧会概要 (資料2～5ページ参照)

茨城県で開催される第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体(2019(令和元)年9月28日から10月8日)」及び第19回障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会(10月12日から14日)」の文化プログラムとして、当館では本県と縁の深い横山大観を取り上げます。

横山大観は1868(明治元)年に水戸に生まれました。東京美術学校で岡倉天心に師事してその歩みをとものにし、日本美術院、再興日本美術院を中心とした活動で、近代日本画の発展に大きく寄与しました。大観はまた本県にとっては最も重要な画家であり、戦前から茨城美術展の創設に尽力する等々、茨城の美術を語る折に欠かすことのできない存在です。

今回の企画展示は大観の代表作品約45点を展示し、大観芸術の流れを辿ることで、国内の各地から来県された方々に大観芸術と大観を生んだ茨城県についてより理解を深めていただく機会としています。

4 主な出品作品 (資料6ページ参照)



1



2



3

1 「山路」明治44(1911)年 個人蔵 / 2 「山に因む十題 霊峰四趣 秋」昭和15(1940)年 ポーラ美術館蔵
3 「或る日の太平洋」昭和27(1952)年 日本美術院蔵

5 内覧会のご案内

- (1) 日時：9月27日(金) 14:00～
(2) 会場：1階 第1展示室入口前

※その他イベント等については資料5ページを参照してください。

《問い合わせ先》茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保666-1

Tel:029-243-5111 / Fax:029-243-9992 / E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

担当学芸員：美術課 今瀬 / 広報担当：企画普及課 河野 / イベント担当：企画普及課 仲田

1 展覧会名

「茨城国体開催記念 企画展示〈横山大観〉」

2 主催

茨城県近代美術館

3 後援

東日本旅客鉄道株式会社 水戸支社

4 会期

令和元(2019)年9月28日(土)～10月27日(日) 28日間

休館日：10月15日(火)、21日(月)のみ

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

5 会場

茨城県近代美術館

6 入館料

一般 310(240)円、満70歳以上 150(120)円、高大生 240(170)円、小中生 170(110)円

※()内は20名以上の団体料金 ※障害者手帳等をご持参の方は無料

※土曜日は高校生以下無料

7 展覧会概要

茨城県で開催される第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体(9月28日から10月8日)」及び第19回障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会(10月12日から14日)」の文化プログラムとして、当館では本県と縁の深い横山大観を取り上げます。

横山大観は明治元(1868)年に水戸に生まれました。東京美術学校で岡倉天心に師事してその歩みをともし、日本美術院、再興日本美術院を中心とした活動で、近代日本画の発展に大きく寄与しました。大観はまた本県にとっては最も重要な画家であり、戦前から茨城美術展の創設に尽力する等々、茨城の美術を語る折に欠かすことのできない存在です。

今回の企画展示は大観の代表作品約45点を展示し、大観芸術の流れを辿ることで、国内の各地から来県された方々に大観芸術と大観を生んだ茨城県についてより理解を深めていただく機会とします。

(363文字)

【広報文1】(36字)

明治元年に水戸に生まれた近代日本美術の巨匠、横山大観の作品約45点を展示。

【広報文2】(89字)

明治元年に水戸に生まれた近代日本美術の巨匠、横山大観の作品を約45点展示。新しい時代にふさわしい作品を創り出そうとした明治時代の作品から、最後の出品作までを展示し大観の芸術をたどる。

【広報文3】(198字)

明治元年に水戸に生まれた近代日本美術の巨匠、横山大観の作品を約45点展示。岡倉天心の指導のもと新しい時代にふさわしい作品を創り出そうとした明治時代の作品、天心没後、彩色画と水墨画において独自の画風を展開した大正時代の作品、社会的な地位も確立し、日本画家の代表として評価され、皇

室や政治とも関係を深め、日本画家の代表として活躍した昭和戦前の作品、戦後の最後の院展出品作までを展示し大観の芸術をたどる。

8 主な展示作品

- ・「山に因む十題 霊峰四趣 秋」 昭和 15(1940)年 ポーラ美術館蔵
- ・「山に因む十題 霊峰四趣 春」 昭和 15(1940)年 茨城県近代美術館蔵
- ・「山路」 明治 44(1911)年 個人蔵
- ・「或る日の太平洋」 昭和 27(1952)年 日本美術院蔵
- ・「風蕭々兮易水寒」 昭和 30(1955)年 個人蔵

※作品についてのエピソードは、「10 見どころなど」を参照。

9 横山大観略歴

- 明治元(1868)年 茨城県水戸に生まれる。
- 明治 22(1889)年 東京美術学校（現：東京藝術大学）に第一期生として入学
- 明治 26(1893)年 東京美術学校卒業
- 明治 29(1896)年 東京美術学校図案科助教授に就任
- 明治 31(1898)年 東京美術学校騒動により辞職し天心らと共に日本美術院を創設
- 明治 36(1903)年 インド、アメリカ、ヨーロッパを訪問
- 明治 39(1906)年 日本美術院の移転に伴い茨城県五浦へ移住
- 大正 3(1914)年 天心の一周忌当日に休止状態であった日本美術院を再興
- 大正 12(1923)年 第 1 回茨城美術展に顧問・審査員として出品
- 昭和 5(1930)年 ローマ日本美術展覧会で総指揮をとるためイタリアを訪れる。
- 昭和 12(1937)年 第 1 回文化勲章受章
- 昭和 29(1954)年 茨城県の名誉県民第一号となる。
- 昭和 33(1958)年 東京都で死去

10 見どころなど

(1) 大観が 71 歳の時に制作し、畢生の名作といわれる「海山十題シリーズ」のうち 2 点を展示

水戸に生まれ、もともと皇国思想に篤かったことと、新しい日本の文化創造に貢献すべきと説かれて美術学校に入学し教育を受けたこともあり、大観は絵を描くことで国に報いるという気概を終生持ち続けた。大正末以降、皇室からのご下命を受けたことをきっかけに、天皇への崇敬をますます高め、昭和 15(1940)年、皇紀二千六百年と自らの画業五十年を記念し「海に因む十題・山に因む十題」の 20 点を制作、作品の売上金は陸海両軍に献納した。大観 71 歳の年に発表され彩管報国を实践した本シリーズは大観の画業の集大成ともいわれるが、そのうちの 2 点を並べて展示する本展は貴重な機会となる。

(2) 3 つめの「山路」、を約 40 年ぶりに展示！

大観は同一主題によるヴァリエーション作品をしばしば制作し、現在知られている「山路」は今回展示した作品を含め 3 点あることが知られている。一つめは第 5 回文展に出品された「山路」(永青文庫蔵・熊本県立美術館寄託)、二つめは原三溪が旧蔵していた「山路」(京都国立近代美術館蔵)で、今回展示される 3 つめの「山路」は、昭和 52(1977)年の「横山大観パリ展」に出品され、昭和 54(1979)年の画集にカラー図版が掲載されたものの、長らく公の場で公開されることがなく、今回は約 40 年ぶりの公開と

なる。

(3) 80代になっても、同時代の動きに関心を持ち続けていたことがわかる作品を展示

明治元年生まれの日本画の巨匠という、伝統を踏襲する古風な画家のように感じるかもしれない。しかし大観は古典に取材した場合でも模倣に終わらず、自分が関心を持つ同時代の動きを表現した。今回の展示では80歳を過ぎても社会に関心を持ち続け制作していたことがわかる作品も展示。

・「或る日の太平洋」

サンフランシスコ講話条約調印直後に描かれた作品で、「登龍富士図」という伝統的な主題によりながら、太平洋の波に戦勝国アメリカ等を、龍と富士山に日本を重ねている。復興が進み主権を回復することのできた状況を祝う気持ちで描いた84歳の時の作品。

・「風蕭々兮易水寒」(かぜしょうしょうとしてえきすいさむし)

画題は司馬遷『史記』の中で、刺客が生きて帰ることのない覚悟で詠んだ「易水送別の歌」(風蕭々兮易水寒 壯士一去兮不復還(そうしひとたびさつてまたかえらず))による。戦後、岩絵の具による厚塗りが主流になり日本画が変貌していく中、自身の理想とする日本画を示すため水墨画で描いた87歳の時の作品。

11 人間大観の知られざるエピソード

(1) 働き盛りの12年間に、家族や親しい人8名と死別

大観の前半生は、作品が世間に認められず生活が苦しただけでなく、プライベート面でも親しい人を8人も失うという悲しみの時代でもあった。後年大観はこの時期を「悲愁12年」と呼んでいる。

明治35(1902)年 大観34歳 最初の妻が死去

明治37(1904)年 大観36歳 弟が死去

明治38(1905)年 大観37歳 ヨーロッパ滞在中に、日本に残していた娘が5歳で死去

明治40(1907)年 大観39歳 父が死去

明治43(1910)年 大観42歳 妹が死去

明治44(1911)年 大観43歳 親友の菱田春草が死去

大正2(1913)年 大観45歳 再婚した妻と恩師の岡倉天心が死去

(2) ノーベル賞作家タゴールとの関わり

明治36(1903)年 前年に師・天心がインドへ渡航し、詩人として有名なロビンドロナト・タゴールとも交流した関係で、春草と共にインドへ渡航。タゴールの甥の家に滞在し、現地の画家達と交流する。

大正5(1916)年 天心没後、タゴールが初来日。タゴールは大観邸に滞在。以後もタゴール来日の時にはもてなした。

(3) 昭和戦前期、日本画壇の代表として活動する時期に関わった要人

昭和5(1930)年 ローマ日本美術展覧会で総指揮をとるためイタリアを訪れる。会場でムッソリーニの案内役を務め、滞在中ローマ法王に謁見した。

12 関連イベント

(1) 講演会「大観の人と芸術 茨城との関係を中心に」

講師：古田 亮氏（東京藝術大学大学美術館准教授）

日時：10月6日（日）13:30～15:00

会場：地階講堂

定員：先着 250 名（申込不要、参加無料）

(2) ギャラリートーク

日時：10月13日（日）14:00～

会場：1階展示室（申込不要、要チケット）

13 同時開催の展覧会

企画展「憧れの欧米への旅 竹久夢二展」

会期 9月7日（土）～10月27日（日）

入場料 一般 980(850)円／満70歳以上 490(420)円／高大生 720(600)円／小中生 360(240)円

◆「憧れの欧米への旅 竹久夢二展」のチケットで、本展もご覧になれます。

14 問い合わせ先

茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel:029-243-5111 Fax:029-243-9992 E-mail:fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

担当学芸員：美術課 今瀬 / 広報担当：企画普及課 河野 / イベント担当：企画普及課 仲田

出品作品図版

- 1 「山に因む十題 霊峰四趣 秋」 昭和 15(1940)年 ポーラ美術館蔵
- 2 「山に因む十題 霊峰四趣 春」 昭和 15(1940)年 茨城県近代美術館蔵
- 3 「山路」 明治 44(1911)年 個人蔵
- 4 「或る日の太平洋」 昭和 27(1952)年 日本美術院蔵
- 5 「風蕭々兮易水寒」 昭和 30(1955)年 個人蔵

※1 このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。

※2 画像掲載の際には、当館までご一報ください。

※3 画像のトリミング、文字のせはお控えください。



1



2



3



4



5